

第4回海外巡検のお知らせ

東京地学協会では、一般の方々を対象に地学の普及を目的とした海外巡検を企画しています。すでにハワイと台湾で実施して、参加者から好評をいただいています。きたる3月に実施するアラスカへの第3回に次いで、第4回はイタリアを目的地に選定しました。みなさま、ふるってご参加ください。

「イタリアの火山噴火と遺跡—エトナ・ストロンボリ・ポンペイ—」

2001年6月8日(金)～15日(金)6泊8日

企画主催：東京地学協会

旅行主催：静鉄観光サービス(株)本店営業部(<http://www.netinsz.co.jp/sts/>)

みどころ：

- 1) ヨーロッパ最大の火山エトナ。昨年からたいへん活動的で、今年1月も溶岩を流した。
- 2) 赤いマグマを噴き上げ続ける「地中海の灯台」ストロンボリ島。
- 3) ペスビウスの西暦79年噴火で埋まり、長い間忘れ去られていた古代都市ポンペイ。

対 象：地学に興味を持つ一般の方々。

案 内 者：早川由紀夫(群馬大学教育学部助教授・火山学)
ほかに静鉄観光添乗員が日本から1名同行します。

募集人員：25名(最小催行人員20名)

費 用：28万5000円(6朝食・3昼食つき)。プラス1万5000円で札幌・名古屋・大阪・福岡からの出発が可能。

日 程：

- ・6月8日(金)成田12:30発のアリタリア航空でミラノまでノンストップ。ミラノ着18:00。そのまま国内線に乗り換えてカターニア着21:35(シチリア島)。ホテルへ。カターニア泊。
- ・6月9日(土)専用バスで、午前はエトナ火山見学。午後は紀元前3世紀ころの古代ギリシャ遺跡タオルミーナ見学。メッシーナ泊。
- ・6月10日(日)船にてストロンボリ島へ。午後から夜までかけて山頂火口展望台(918m)まで徒歩による登山。ストロンボリ泊。



南側から見たエトナ火山の山頂付近。
黒々とした筋は最近の溶岩流。
『ヨーロッパ火山紀行』より



南側海上からみたストロンボリ島。
『ヨーロッパ火山紀行』より

- ・ 6月11日（月）終日ストロンボリ島。夕刻，遊覧船にて海からの噴火見学（予定）。ストロンボリ泊。
- ・ 6月12日（火）09：05 発の高速船にてナポリへ13：05 着。午後，ボンベイとエルコラーノ遺跡見学。ナポリ泊。
- ・ 6月13日（水）専用バスでベスビウス火山へ。山頂火口めぐりのあと，国立考古学博物館見学。ナポリ泊。
- ・ 6月14日（木）ナポリ10：05 発。ミラノ乗り換えで，
- ・ 6月15日（金）成田着08：50。



ストロンボリ山頂火口からの噴火。背景はティレニア海の夕映え。
『ヨーロッパ火山紀行』より

〔料金に含まれるもの〕

旅行日程に明示された航空運賃（エコノミークラス），バス等の運賃。

ホテル宿泊代（2名1室），1名使用の場合プラス5万5000円。

各種施設使用料，空港使用料など。

食事は機内食のほか朝食6回昼食3回つき。



ベスビウス火山とポンペイ遺跡。

〔含まれないもの〕

渡航手続き関係諸費。

集合の空港までの国内交通費。

電話代クリーニング代等個人的費用。

任意の旅行傷害保険，超過手荷物料金。

・ 参考になる図書：

小山真人『ヨーロッパ火山紀行』ちくま新書130

http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/Europe/eurov.html



ポンペイ遺跡。
三つの踏石を置いて，特定の幅をもつ車だけが通過できるようにしている。

詳細・参加申し込み書類の入手方法：

詳しい資料や参加ご希望の方は，氏名・住所・年齢・電話番号・職業を，郵便・ファクス・電子メールいずれかの方法で，東京地学協会イタリア火山ツアー係までお知らせください。旅行条件などを明記した資料・申込書類一式を委託旅行業者からお送りします。申し込み締め切りは，2001年3月30日です。申し込み多数の場合は，東京地学協会において抽選により参加者を決定します。健康その他の理由で参加をお断りすることがありますので，あらかじめご了承ください。

〒102-0084 千代田区二番町12-2 東京地学協会「イタリア火山ツアー」係

ファクス：03-5226-9120

電子メール：tyo-geog@ka2.so-net.ne.jp（サブジェクトに「イタリア火山ツアー」と明記してください）

.....

地質科学関連学協会連合・地質学研究連絡委員会共催 地質科学シンポジウム

地質工学および関連分野における技術者養成と大学教育（仮題）

日時：2001年6月4日（月）10：00～17：00

会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

趣旨：21世紀に入り，科学技術を有効に生かした社会の持続的発展に対する地質工学分野の科学と技術の役割は一層大きくなると考えられる。一方，それを担う人材を育成すべき大学では，学生の学力低下や教育システムの桎梏，教育予算の削減等で危機的な状況が進行している。このような中で日本技術者教育認定機構（JABEE）が発足し，大卒技術者の高い資質の確保と教育カリキュラムの整備，技術者資格の国際的認証による活躍分野の国際化などを図っている。このような技術者育成をめぐる急激な情勢変化を踏まえながら，地質科学分野において求められる技術者像とそれを育成するための高等（大学）教育の改革などを幅広い視野から議論して，改善の方向を探りたい。

地学クラブのお知らせ

下記により地学クラブを開催いたします。多数ご参加くださるよう，お待ちいたしております。なお，講演終了後，1時間ほど講演者を囲み懇談の時間を設けますので，ご自由にご参加ください。

・3月19日（月）「地球化学図による元素解析」 地質調査所地球化学研究室長：今井 登
地殻表層における元素の分布図である地球化学図の意義と作成法について説明し，地球化学図の世界および日本における動向と現在進行中の日本全国をカバーする地球化学図プロジェクトの進行状況の概要について述べる。

・4月20日（金）「南極氷床コアから見た気候変動」 国立極地研究所：渡辺興亞
ドームふじの頂上で掘削された氷床深層コアの最新の解析成果を報告する。特に，ドームふじコアの年代，コアに含まれる大気成分の変動を中心に報告し，ボストーク・コアやグリーンランド・コアとの比較からドームふじコア情報の特性について検討する。

・6月20日（水）「SPring-8を使った超高压における鉱物相転移- マントル相」 愛媛大学理学部：入船徹男
世界最大の放射光実験施設 SPring-8 の高輝度 X 線と，我が国で独自に開発がすすめられてきた大型超高压高温発生装置を組み合わせ，地球深部の物質や構造をさぐる研究が新しい展開をみせている。SPring-8 高压地球科学ビームラインにおける最近の実験成果の紹介とその地球深部科学への応用，また今後の方向について展望する。

・7月19日（木）「超臨界岩体からの地殻エネルギー抽出の可能性」 東北大学大学院工学研究科：橋田俊之
能動的な地殻エネルギー抽出を対象に，水圧破碎による貯留層の拡大挙動および抽熱の評価法に関する研究動向について話題を提供する。特に，水の臨界条件を越える超臨界状態にある深部岩体からの抽熱を志向した日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「未来型地殻エネルギー抽出の研究」プロジェクトの研究内容とこれまでの成果を概説する。